

令和3年度病害虫発生予察指導情報

7月7日からの豪雨により注意が必要な病害虫について

令和3年7月9日
鳥取県病害虫防除所

1 情報の内容

7月7日からの記録的な豪雨により、農作物の病害虫の発生が懸念されているため、以下のとおり適切な対策を講じる。

2 気象情報

気象庁の発表によると、本州付近に梅雨前線が停滞するため、10日頃にかけて大雨になるおそれがあると予想されていますので、引き続き注意が必要である。

3 発生に注意が必要な病害虫と対策

(1) イネ白葉枯病

本病は浸冠水により発生が助長される。現時点で、本病に有効な抵抗性誘導型の育苗箱施用剤を使用している場合は、残効が期待できる。一方、これらの育苗箱施用剤を使用していないほ場において、本病の発生が予想される場合は、できるだけ早くオリゼメート粒剤等を散布する。防除上注意すべき事項は、病害虫防除指針を参考にする。

(2) ダイズ黒根腐病

本病は土壌の多湿条件下で発生が助長されるため、排水対策を徹底する。

(3) ダイズ茎疫病

白大豆では発生しにくいですが、土壌の多湿条件により発病が助長されるため、排水対策を徹底する。また、発生がみられた場合には病害虫防除指針を参考にして、薬剤防除を行う。

(4) ハダニ類（果樹・野菜共通）

ハダニ類の密度は、梅雨明け以後の高温乾燥条件下で急激に高まるので、ほ場の観察を徹底し、発生初期の防除に努める。防除上注意すべき事項は、令和3年度病害虫発生予報第5号（令和3年7月7日付）を参照する。

(5) ネギ疫病

詳細は、令和3年度病害虫発生予察指導情報（ネギ疫病）を参照する。

(6) ネギ白絹病・軟腐病

これらの病害は高温多湿条件下で発生が助長される。防除上注意すべき事項は、令和3年度病害虫発生予報第5号（令和3年7月7日付）を参照する。

(7) アスパラガス茎枯病

本病は、露地栽培の降雨後や排水不良畑で発生しやすい。病害虫防除指針を参考に降雨後の薬剤防除を徹底するとともに、発病茎や葉のほ場外処分を行う。

(8) スイカ疫病・褐色腐敗病

これらの病害は露地栽培の降雨後や排水不良畑で発生しやすい。病害虫防除指針を参考に、降雨後の薬剤散布を徹底する。

(9) ブロッコリー花蕾腐敗病

本病は、高温期に収穫する作型で発病が多く、出蕾時期から花蕾肥大初期に降雨が続くと発病が多くなる。病害虫防除指針を参考に降雨後の薬剤防除を徹底する。